

パソコンユーザーの年齢が話題になったことがある。(1417
號反響欄)

せいぜいがこの代であった。それで眞道重明先生は86歳と
書いたのが二年前のこと。

眞道先生から、猛暑の夏を過ぎて呆けが一段と進行との
メールをいただいたが好奇心ではなほ壯者を凌ぐものがあ
る。

繪で讀む般若心經

の御案内であった。

盲曆といふもの、南部藩のものが有名であるが、その類。
つまり文盲の人のための經文。

先生の解説を引用する。

下圖の縦書きの右端中央にお經の表題がある。各
繪の左に平假名でルビが振つてある。上端の繪は
「ひっくり返した釜」であるが、「かま」をひっくり
返すと「まか」となる。漢字で書くと「摩訶」に
該當する。その下の繪は「はんじゃ」のお面で、漢
字では「般若」である。その次の繪は「人間の腹」
で、「はら」と讀み、漢字で書くと「波羅」となる。
次の繪は「箕」で「み」、教典の漢字では「蜜」、次
は田んぼの「た」(漢字の「田」)、教典の「多」に
當る。最後は神社にある神鏡の繪で「しんきょう」
この場合は「しんぎょう」、教典の「心經」に該當
する……と云つた具合である。

つまり、繪だけではなく振假名があるのだ。いや、假名
に繪が振つてあるのかもしれない。兩兩相俟つて音を示し
てゐるわけだ。しかし、音といつても假名の單位ではない、
まして單音といったものでもない。

般若心經を擴張へボン式で轉寫したことがある。なほ、御
興味のある方は眞道先生のサイトの懐かしい唄の最後の方
にあるので御参照いただきたい。

このとき、漢字の一字、つまり一語が二拍になつてゐる
ことに氣がついた。さうなつてゐないのは、羯諦羯諦波羅

羯諦波羅僧羯諦菩提薩婆訶の部分でここは梵語の音を寫したところと言はれる。

さう思つて、文盲の人のための經文を見ると面白い。釜を逆さにした箇所の假名はマカだけれど、これが離してあるのだ。腹のハラも同様。般若のハンニヤはハンとニヤに切れ目があるだけだ。箕にはミでなくミツと二字をあてるといった具合。つまり、假名一字の場合の直後の空白は一拍の持續を意味するのだ。

羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦菩提薩婆訶のところも、同じやうな假名。しかし、擴張へボン式では次のやうに轉寫してゐる。

gyahtehgyahteh haragyahteh harasougyahteh bojiso akah
母音が續かないハは音引き。逆アポストロフイは語中の八行音、ア段でのみ兩唇半母音として實現される。

波羅がそれぞれ一拍。菩提薩婆訶も最後の拍を除いて一拍だ。なほ、bojiはボヂ、つまり菩提の提はタ行音。しかし、繪による經文ではジだ。總じて、歴史的假名遣でなく、その限りで表語的表記でなく、制限假名字母表記になつてゐる。

繪と假名との併用は腦中の記憶が別だからこそそのもの。つまり重複でなく互に補ふシステムだといふこと。漢字の音と訓についても同じだと思ふ。文部當局はこの違ひを無視して讀みといふ一つのものにくくってしまった。交ぜ書きの氾濫する所以だ。我が國民の腦の毀れ方をみよ。